



全教北九州

新聞 全教北九州

全教北九州市教職員組合

2025年11月28日

全教北九州

検索

確定交渉 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

これで教員の長時間労働と教職員不足が解消される？

2025年度給与改定交渉最終提示

今年度の給与改定交渉では、9月25日（木）から15回の話し合いを行いました。特に今回処遇改善として提案された、いわゆる給特法関連の提案は、「これが教員の長時間労働と教職員不足解消」となるのか、はなはだ疑問の残る結果となりました。昨年度も掲げていた「常勤講師の2級適用」「会計年度任用職員の更新上限の廃止」「事務補助未配置を元に戻す」は今年も実現できませんでした。しかし、総務省通知、国会での文科大臣答弁、他都市の状況等をしつかり把握し、実現に向けあゆみは止めません。

欠員教職員の業務フォローに係る加算の新設

大綱では、「育児休業等を取得した教職員のフォローに係る加算の新設」が上がっていました。それに加えて、「欠員教職員の業務のフォローに係る加算の新設（常勤職員による代替が行われる場合を除く。）」が加わりました。該当事由は、病気休暇、分限休職、配偶者同行休業、自己啓発等休業、職員の職務に専念する義務の免除（公務による負傷又は疾病の場合に限る。）、退職、昇任、転任、免職、停職、失職等となっています。勤勉手当の成績率の加算として、100分の6以内を加えることができるとなっています。実施時期は、2026年12月1日。複数人の業務をフォローした場合、加算割合が100分の8を上限としています。

子育て支援休暇の改正

取得要件に「特別支援学校もし

くは特別支援学級又は障害児通所支援事業所への送迎」が加わりました。会計年度任用職員も同様に改正します。実施時期は2026年4月1日です。

高校教員、学校事務職員、校務員、給食監理士の適用条例の移管

適用条例の変更により、大綱に加えて、勤務時間の割振が変更され、週休日の振替可能期間が「4週間前、8週間後」から「8週間前、16週間後」へ変更となります。

特別休暇の結婚又はパートナーシップ形成の取得可能期間は「休暇の期間内のいずれかの日又は休暇の期間に連続する日」から「結婚等の5日前から結婚等の6月を経過するまで」となります。また産前休暇の「未消化分は産後繰り越し可能（多胎妊娠を除き上限6週）」となります。

高齢者部分休業では、週31時間が加わります。同様に暫定再任用及び定年前再任用短時間勤務職員

の勤務条件等に週31時間、1日7時間45分×週4日が加わります。

勤務時間の割り振り変更

小中特支学校教員の「公務の運営に支障がないと認める場合において、宿泊行事でなくても、勤務時間の割振を変更する場合、週休日のほかに勤務時間を割り振らない日を設けることができる。」ことになりました。

例えば、小学校で前期終了前に、成績付けなどで1日2時間、3時間、3時間と超過勤務を行った。その場合に、前期と後期の間の学校閉庁日に年休でなく、この割り振り変更で休むことができるということです。

その他の変更

高校だけでなく、小中特支学校の事務職員等も勤務の割り振り変更、週休日の振替可能期間、結婚等休暇取得可能期間、産前休暇の未消化分の産後繰り越し、育児時間の取得単位、高齢者部分休業、暫定再任用及び定年前再任用短時間勤務職員の勤務時間も同様に変更されます。

北九州市で働いてよかったと思える環境を目指して

全教北九州は引き続き、「北九州市で働いてよかった。」「退職まで北九州市で働き続けたい。」「誰もが実感できる職場環境を目指して交渉を続けます。」

北九州の戦争遺跡

山田弾薬庫③

(小倉北区)

朝鮮戦争休戦後山田弾薬庫の活動は下火となります。しかしアメリカがベトナムに大規模な軍事介入を始める活動が活発になりました。弾薬庫は米空軍の管理下で板付空軍基地（現福岡国際空港）の弾薬庫の役割を担いました。周辺の宅地化が進んだことで、白昼堂々と爆発物を輸送する光景は住民に深刻な不安と恐怖を与えました。このことは全国で高まりを見せていたベトナム戦争に対する反対運動に、山田弾薬庫返還運動が加わることになりました。

学生や青年労働者が先頭に立った返還運動は広がりを見せ、1968年には港灣労働者による米軍の弾薬荷揚げを拒否するストライキ、南小倉駅付近で座り込みによる弾薬列車の運行阻止があり、最終的には市議会も返還要求を決議するにいたりました。

度重なる妨害と世論を受け米空軍は70年に弾薬庫閉鎖を決定、72年2月15日に日本へ返還しました。

子どもとともに未来へ生きる

11/8・9 第34回全国女性教職員学習交流集会 in 神奈川

11月8日、9日、神奈川県で「第34回全国女性教職員学習交流集会」が開催されました。全国から三百余名の参加があり、全教北九州からも4名が参加しました。

第34回全国女性教職員学習交流集会は11月8日9日の両日、神奈川県内で開催され、現地とオンラインあわせて二日間でのべ292人が参加しました。

8日の全体会では、現地実行委員のみならず日頃がんばっている全国のみなさんに、癒しを感じてもらいたいと、手作りのレインステックで波の音を再現しながら、「インクルーシブヨガ」の実演で始まり、動画による各組織の活動紹介、「日本子どもを守る会」会長の増山均さん（早稲田大学名誉教授）による講演「子どもたちがしあわせに生きる学校・社会を」がありました。

「働き方改革」と言われ、私たちの労働条件を改善することは大事ですが、子どもたちのために削れないことまで、削つていいか、子どもたちの力を信じ、子どもたちが幸せになるために私たちがすべきことは何なのか、改めて考える機会となりました。

9日は1講座、4分科会、2見学（どちらも横浜市内）分科会が開催されました。季節の変わり目で体調も下がり気味でし

たが、リフレッシュするともに各地の経験を受取ることができ、たくさんの元気をもらう二日間となりました。



現地参加者の集合写真

二つの扉から算数のツボを学ぶ

11/14 全教北九州・共済会 「せんせいの学校」

11月14日（金）小倉北区で小学校の算数をテーマとした、せんせいの学校「算数の「壁」を未来をひらく「扉」に」を開催し、組合員でない先生方も含めて12人が参加しました。講師役は数教協（数学教育協議会）会員の組合員がつとめました。

一つ目の扉は「1年生の算数は、量で十進位取り記数法を理解させること」の大切さです。

5の合成と分解、10の合成と分解の学習の指導、位取り記数法を実際にブロックを動かすことで理解させる指導、正方形の1を基に、十、百、千、万の大きさをつくり、量の違いで数の大きさを実感させていく指導など、教具の工夫やゲームの要素を取り入れながら楽しく学習していく実践が紹介されました。



二つ目の扉は、「分数の意味と計算」です。

今の学習指導要領では2年生から分数の学習が始まり、つまりポイントがいくつもありません。そこで、ただ計算の仕方の理解に陥らないように、しっか

り量をもとに分数を指導していくことが大事ということで、教具の紹介もありました。

教具を作るのは時間がかかりますが、子どもたちの算数への理解が深まると思えばモチベーションとなり、一度夏休みにまとめて作っておけばその後十年も使えるという話は、新たな視点となりました。

教職員組合は、教職員の勤務条件や子どもたちの教育条件の改善にかかわる要求をまとめ、それを実現するために保護者や地域のみなさんとも協力しながら運動し、国や自治体と交渉する役割を担っています。同時に、教職員の力量をたかめるために互いに学びあうことも、大切な役割だと考えています。

全教北九州は、全国規模の研究等への参加を呼びかけることもに地元でも学習会を開催し、組合の内外に参加を呼びかけています。

助かっています、病児保育

4月に育休からの復帰をしました。第二子が保育園入園式翌日に発熱。そこから治ってもすぐに次の病気をもらってきて、4月と5月は登園したのはごくわずかという状況でした。

「これで子育て支援休暇は使いましたし年休すらなくなる！」との危機感で、病児保育に預

ける決断をしました。病気の時は自宅で休ませてあげたい、慣れない場所に預けて大丈夫か、と不安は山ほどありまし

よるゾーニングなど、万全の体制があることに安心しました。しかも無料です。

病児保育には、新型コロナウイルスウィルス感染症など預けることができない病気もありますし、受入れ人数の制限も

あります。しかし、看護師さんと保育士さんによる体制、病院や薬局との連携、病気や年齢に

ありますが、仕事と子育てを両立させるうえで大きな味方であることを実感しています。